The Tomakomai Mimpo

苫小牧民報

2025年（令和7年）
9月4日
木曜日

発行所　苫小牧民報社　〒053－8611　苫小牧市若草町3丁目1番8号　代表電話 0144(32)5311

苫小牧東病院 胆振管内で唯一

脳卒中治療にrTMS療法

磁気刺激でまひした手の回復促す

苫小牧市明野新町の苫小牧東病院（橋本洋一理事長・院長）は、脳卒中治療で反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法を取り入れている。専用の医療機器で脳に磁気刺激を与えることで、まひした手足の回復を促す治療方法。リハビリテーションとの併用で効果が高まるといい、牧野茂医局長は「脳卒中治療の裾野を広げたい」と意気込んでいる。

rTMS療法を説明する牧野医局長（奥）

脳卒中発症後のリハビリは、可能な限り早く始めることが重要で、回復期のリハビリ効果は緩やかになる課題があった。脳卒中で損傷していない正常側の半球が、損傷した半球の働きを抑えようとする「半球間抑制」効果があるため。rTMS治療は正常な半球の一次運動野という領域を刺激することで、損傷側の半球の再活性化を図るという。

磁気刺激の医療機器マグプロを用い、痛みやしびれを伴わずに磁気で治療。同機器の販売代理店インターリハ（東京）は「全道7カ所の医療機関でrTMS治療に取り組んでいる。胆振管内では苫小牧東病院のみ」と説明する。同院は回復期リハビリ効果を向上しようと、同療法を2022年に導入。新型コロナウイルス禍で使用できない時期を経て、昨年4月から本格的に使っている。

同院では、脳卒中により手のまひが中程度ある人を対象に、約2週間の短期集中リハビリ入院中、rTMS治療を平日に1日2回実施。機能訓練や生活動作のリハビリと自主練習を組み合わせ、訓練効果を高めているという。同院ではこれまでrTMS療法を23人に行い、コロナ感染で治療を中止した1人を除く22人に効果を確認。患者からは「右手で箸が持てるようになった」など、生活に直結する機能の改善に喜びの声が上がっているという。

同院の牧野医局長は「回復の意欲が強い人ほど治療効果が上がりやすい」と説明し、「新しい脳卒中治療の裾野を広げたい」と意欲。他院を退院した患者にも短期集中リハビリ入院を案内しており、同院リハビリテーション部の成田伸夫チームマネジャーは「今後は失語や嚥下（えんげ）障害にも適用を広げたい」と話している。